

## 医療ソーシャルワーク実践論

《担当者名》巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

医療ソーシャルワーク実践は、人生(妊娠、出生、疾病、人生の最終段階)で出逢う生活課題を抱える人に社会システムを活用した支援とともに、解決できない困難を産み出す社会に関心を持ち行動する実践である。

本講義では、妊娠・病とともに生きる人々の事例検討や家庭訪問・フィールドワーク等の実践的な体験を通じて、医療ソーシャルワークに関わる諸問題に対する自らの関心を深め、理解・考えを明確化することを目指す。

## 【学修目標】

1. 妊娠・病と共に生きるクライアントの生活課題・ニーズを説明できる。
2. 実践事例に対する臨床推論を行うことができる。
3. 多職種連携の構造と医療ソーシャルワーカーの役割を説明できる。
4. 妊娠・病と共に生きる上での生活課題と社会構造に対する自らの考えを述べるができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 暮らしと医療とWell-being	・オリエンテーション ・Well-beingに影響する人生の局面で決めるエピソードを例示することができる。	巻
2	社会的ハイリスク妊婦をめぐる環境 と実践	・社会的ハイリスク妊婦を取り巻く環境(0日死亡、 内密出産・ガイドライン)を説明できる。 ・特定妊婦について概説できる。 ・模擬事例をもとに意見交換ができる。	巻
3	医療的ケア児と家族をめぐる環境と 実践	・医療的ケア児や親の暮らしが例示できる。 ・保育所・学校などとの協働ができる。 ・医療を必要とするこどもが地域で暮らし続けられる ために必要なことについて検討できる。 (北海道医療的ケア児支援センター・医療法人稲生会 高波千代子氏)	高波千代子(特別講師) 巻
4	身寄りがない人をめぐる環境と実践	・身寄りがない人に生じている困難が例示できる。 ・身寄りがない人の入院および医療に係る意思決定が 困難な人への支援に関するガイドラインの要点が説明 できる。 ・死後事務委任について概説できる。	巻
5	チームを育てるチームング	・チームングについて説明できる。 ・信念対立解明アプローチ、推論のはしごなどの観点 を用いて事象を分析できる。 ・心理的に安全な場を創るための留意事項が説明でき る。	巻
6	急性期医療におけるケース発見と地 域ネットワークの構築	・急性期医療で顕在化する児童虐待等への気づきのポ イントを例示できる。 ・要保護児童等対策協議会、臓器移植ネットワークに 関する実践の実際が説明できる。 (講師：手稲溪仁会病院 辻丸菜氏)	辻丸菜(特別講師) 巻
7	在宅生活を支える環境と実践	・解決構築アプローチについて概説できる。 ・在宅療養事例について、臨床推論ができる。 ・在宅での医療ソーシャルワーク実践を想定し、家庭 訪問で対象者にうかがう内容を示すことができる。	巻
8	家庭訪問・フィールドワーク	・在宅で暮らす対象者宅への家庭訪問を通して、病と ともに地域で暮らす人の想いを伺うことができる。	巻
9	家庭訪問・フィールドワーク	・在宅で暮らす対象者宅への家庭訪問を通して、病と ともに地域で暮らす人の想いを伺うことができる。 ・地域生活の継続に必要なことが検討できる。	巻

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	人生の最終段階をめぐる支援環境と実践	・人生の最終段階にいる模擬事例情報をもとに、背景を推察することができる。 ・人生の最終段階における医療・ケアの意思決定ガイドラインのポイントが説明できる。	巻
11	やってみようアドバンス・ケア・プランニング (ACP)	・「人生会議をはじめよう(医療大版)」の様式や項目が説明できる。 ・自らのACPに取り組むことができる。	巻
12	やってみようアドバンス・ケア・プランニング (ACP)	・代理意思決定について概説できる。 ・実践での活用を想定し「人生会議をはじめよう(医療大版)」の様式や項目の改訂に向けた意見交換ができる。	巻
13	生活支援記録法 (F-SOIAF)	・意思決定支援事例をもとに生活支援記録法 (F-SOIAF) に取り組むことができる。 ・F:焦点とI:実施を記録する必要性が説明できる。	巻
14	過疎地域における生活環境と実践	・在宅医療の圏域について説明できる。 ・過疎地域における医療提供の実情が説明できる。 ・病とともにこの街で暮らし最期を迎えるために必要となることが検討できる。	巻
15	医療ソーシャルワーク実践/まとめ	・厚生労働省作成「医療ソーシャルワーカー業務指針」および職能団体作成「医療ソーシャルワーカー業務基準」をもとに意見交換ができる。	巻

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

・参加態度(40%)、ゲストスピーカーリアクション・授業内記録物(60%)。

【教科書】

講義資料としてプリントを配布する。

【参考書】

日本医療ソーシャルワーカー協会（2023）『保健医療ソーシャルワークの知識と技術』中央法規

成清美治・竹中麻由美・大野まどか（2020）『保健医療と福祉』学文社

佐藤択代・松岡紀子・松尾みさき・赤尾さく美（2023）『妊娠を知られたくない女性たち』日本看護紀要会出版社

【備考】

- 1．医療ソーシャルワークをめぐる最新の情報・状況をもとにした授業とするため、授業内容は一部変更の可能性がある。
- 2．家庭訪問・フィールドワークでは、直接又はオンラインでの家庭訪問を予定(前後の授業回と連動)する。
- 3．GoogleClassroomを利用して学習課題の提示、最新情報の情報提供を行う。
- 4．この科目は、教職課程（福祉）では、教科に関する科目の「社会福祉援助技術」に該当する。

【学修の準備】

- 1．次回の講義のテーマについての事前学習や講義内で指示する課題に取り組む。（予習1時間）
- 2．特別講師の講義を踏まえ、自分の「考え」をまとめたレポートを作成する。（復習1時間）
- 3．医療福祉に関する最新動向に関心を持ち、新聞等による情報を把握する。（予習復習1時間）
- 4．講義・演習・実習、社会生活を通じた学習とのつながりに関心として示すことができるようにする。（予習復習1時間）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

社会福祉士、認定社会福祉士（医療分野）、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

( 2026年度・看護福祉学部 )

**【実務経験を活かした教育内容】**

病院・相談機関・居宅介護支援事業所でのソーシャルワーカー(社会福祉士・介護支援専門員等)としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している